SERVICE GUIDE

初回相談無料　全国対応（訪問もご相談）

人の判断を、AIに。
準備は、もう済んでいる。
精度向上に集中できる。

中小企業のためのAI活用サービス資料

画像・動画による検査・設備監視 ／ 需要予測 ／ 社内AIチャット

新栄I株式会社

shinei-ai Co., Ltd.　https://shinei-ai.com

2026年10月版

人が目で見て、数字を見て、探して判断している仕事を、AIに任せる。

検査、監視、発注、社内の問い合わせ対応。人の経験に頼っている業務の多くは、AIに置き換えられます。管理画面やクラウドなどAIを動かすシステムは当社で完成済みです。最初から「データの撮り方・つなぎ方」と「AIの精度向上」に集中し、効果が出た業務から、そのまま使い続けられます。

画像検査・設備監視

目視検査・外観検査を、AIに。

カメラの画像や動画（回転台で回す360度動画や複数カメラも対応）、温度・振動・電流などのセンサーの値を人が見て判断している検査・監視をAIに任せます。まず傷が写る撮り方の確認から小さく試し、効果が出れば現場運用へ広げます。

需要予測

発注量と在庫の判断を、AIに。

過去の販売実績から品目ごとの需要を予測し、発注量の目安を出します。勘と経験に頼っていた需給判断を、データで支える形に変えます。ECと実店舗のどちらのデータにも対応します。

社内AIチャット

社内文書の検索と問い合わせ対応を、AIに。

規程・マニュアル・過去資料をつないだ社員専用のチャットが、根拠の文書を示しながら答えます。探す時間と、同じ問い合わせに答える時間を減らします。

1 システムは完成済み

ログイン、AIの管理、画面、連携の仕組みは完成済み。一からの開発やクラウド設定は不要です。

2 撮り方と精度に集中

データの撮り方・入れ方の確認、AIモデルの調整、結果の分析に時間を使います。見積もり前に契約をお願いすることはありません。

3 御社の環境へ移行

検証に使った環境を、御社のクラウド環境へ移してお引き渡しします。

4 画面は業務に合わせて

標準の画面をそのまま使うことも、業務に合わせた画面を作成してご提供することもできます。

時間をかけるのは、システム作りではなく「データ」と「精度」。

AIの導入では、管理画面やクラウドの仕組みの開発・設定に多くの時間がかかります。当社はそこが済んでいるので、最初から「どう撮るか・どうデータを入れるか」と「どう精度を上げるか」に時間を使えます。

ふつうのAI導入

仕組みの開発
サーバー、画面、データベースの用意

環境の設定
クラウド、権限、セキュリティ設定

管理機能の用意
ログ記録、連携、AIモデルの管理

精度の向上
残った時間で

システム開発やクラウド・管理画面の用意に時間の大半を使い、肝心のデータの撮り方や精度向上の時間が少なくなりがちです。

当社の場合

システムは完成済み
画面・クラウドの開発は不要

撮り方・データの確認
傷が写る角度・照明やデータの選定

精度の向上
データを足して学習し直す

結果の分析
結果を確かめ、次の改善へ

時間の大半を、データの撮り方・入れ方の確認、精度の向上、結果の分析に使えます。効果が出た業務から、そのまま使い続けられます。

完成済みのシステムに含まれるもの

認証・権限管理
誰が何をできるかを一元管理

ログ収集
操作や推論の記録を集約

API連携
既存システムとの接続口を標準化

ワークフロー
業務の流れと承認をそのまま定義

モデル管理
モデルのバージョンと精度を追跡

ダッシュボード
状況を1画面で把握。業務に合わせた画面の作成も可

エージェントの実行環境
AIエージェントの実行と監視

1つのシステムで複数の用途
1つ目を試した後、2つ目・3つ目の費用も小さく済む

03 | SERVICE 1

画像検査・設備監視（AI検証パック）

カメラの画像・動画やセンサーの値を人が見て判断している検査・監視をAIに。既存のカメラの画像や動画でも試せます。効果を確認した後は、外観検査・設備監視の現場運用まで同じシステムで広げられます。

こんな課題に

- 人の目と経験に頼っている作業が多く、判定が人によってばらつく
- 設備の異常に気づくのが遅れる。巡回や目視に頼っている
- AIは大企業向けで、費用が合わないと感じている
- 導入した後の費用が続けられるか不安
- 試しただけで終わってしまい、現場に残らない

ご提供する内容

- **データ接続**：センサー時系列データ、画像または動画をAIの入力として接続。既存カメラの画像・動画も対象
- **AIモデルの登録と推論実行**：検証対象のモデルを登録し、実データで推論
- **検証結果の管理画面**：検知結果や推論の状況を画面で確認。業務に合わせた画面の作成も可
- **検証結果と運用への整理**：効果と課題を整理し、運用に向けた構成と費用の目安をお伝えする
- **既存システムとの連携**：必要に応じてAPI等で接続

対応するデータ・撮り方の工夫

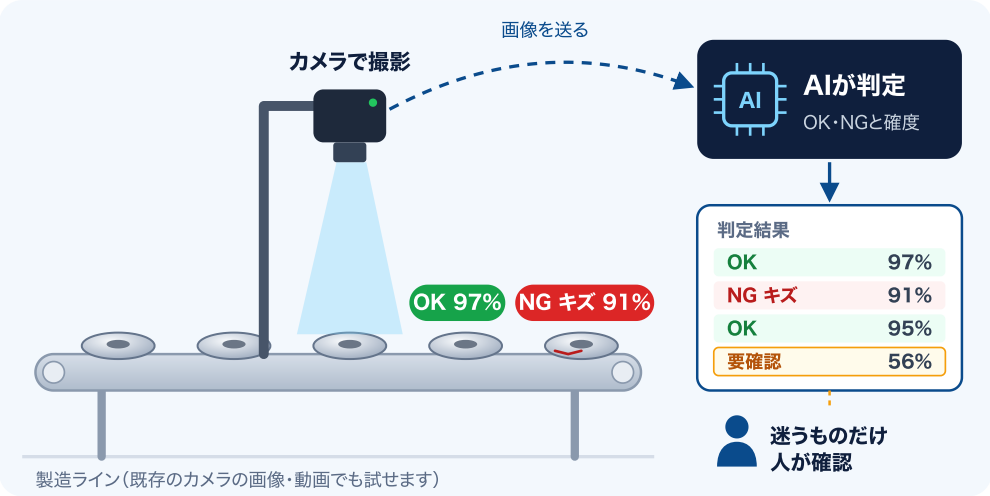
カメラの画像・動画（回転台や傾斜レールで動かす全周動画、複数カメラでの同時撮影、360度カメラでの空間検知、反射を抑える偏光・照明の選定など、傷や対象物が写る撮り方から設計）と、温度・振動・電流・圧力・流量などのセンサー時系列データに対応します。

その後の広げ方（現場運用）

効果が出た検知は、検証に使った環境をそのまま運用に移します。産業用カメラ・センサーの接続からエッジ推論、検知結果のダッシュボードまで一式で、目視検査や設備監視を現場で動かす段階へ進めます。

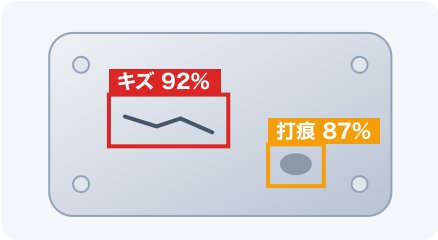
例：金属部品の外観検査と、設備の異常検知。

カメラで撮った画像をAIが判定し、確度が低いものだけを人が確認します。センサーの値からは、いつもと違う動きを見つけて知らせます。

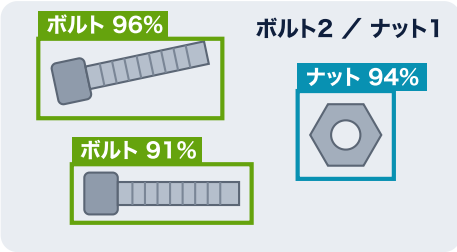


1 カメラで撮影　2 AIが判定　3 迷うものは人が確認　4 記録・集計

AIに任せられる判定の例



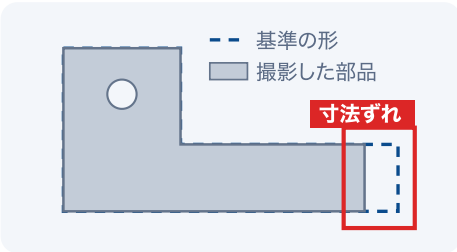
キズ・打痕 表面の傷やへこみを見つける



部品の種類・個数 何がいくつあるかを数える



色・汚れ 基準の色との違いや汚れを見つける



形状・寸法 基準の形とのずれや欠けを見つける

任せる判定は現場の画像を見ながら検証で決めます。図はイメージです。



実際の画面（公開データ VisA のガム）　写真ごとに良品・不良と確からしさを判定（8枚のうち5枚を表示）



実際の画面（サンプル）　設備監視：振動が通常より高いことを検知

04 | SERVICE 2

需要予測・最適化AI

販売実績・在庫・発注履歴などの業務データで学習した予測モデルを、完成済みのAIシステムの上に載せて提供します。まず一部の品目で小さく試し、精度を確かめてから広げられます。作るのはモデルの部分だけです。

こんな課題に

- 発注量が担当者の勘と経験に依存し、担当交代で精度が落ちる
- 欠品と過剰在庫を行き来している
- 季節やイベント、キャンペーンの影響を読み切れない
- POS・EC・基幹システムにデータはあるのに、需給判断に使えていない

ご提供する内容

- **業務データの接続**：POS・EC・基幹システムの販売実績、在庫、発注履歴を予測モデルの入力に接続
- **予測モデルの作成と検証**：自社データで学習し、過去の実績と突き合わせて精度を確認
- **予測結果の管理画面**：品目別の予測と実績、精度を1画面で確認。業務に合わせた画面の作成も可
- **予測API**：予測結果を既存の発注・在庫・基幹システムへ組み込む
- **再学習の仕組み**：実績を取り込んで定期的に再学習し、精度を維持

始めるために必要なデータ

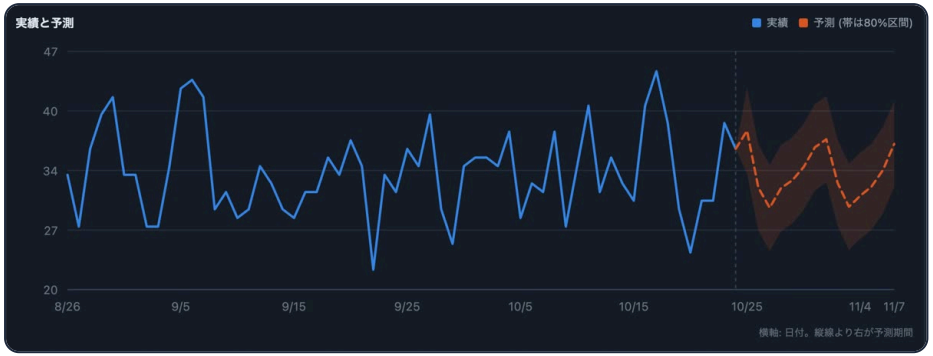
品目別の販売実績が1〜2年分程度あれば検討を始められます。在庫・発注履歴、価格やキャンペーンの情報があると精度を高めやすくなります。データの棚卸しからご相談いただけます。

精度の考え方

大手飲料メーカーでの需要予測・データサイエンスの実務や、AIレコメンド提供企業等で機械学習システムを手がけてきた経験をもとにモデルを設計します。過去実績との突き合わせで精度を確認し、業務で使える合格ラインを一緒に決めてから進めます。

例：食品スーパーの発注量を、販売実績から予測する。

品目ごとに先の需要を予測し、発注量の目安を出します。精度は過去の実績で答え合わせをしながら、段階を踏んで上げていきます。



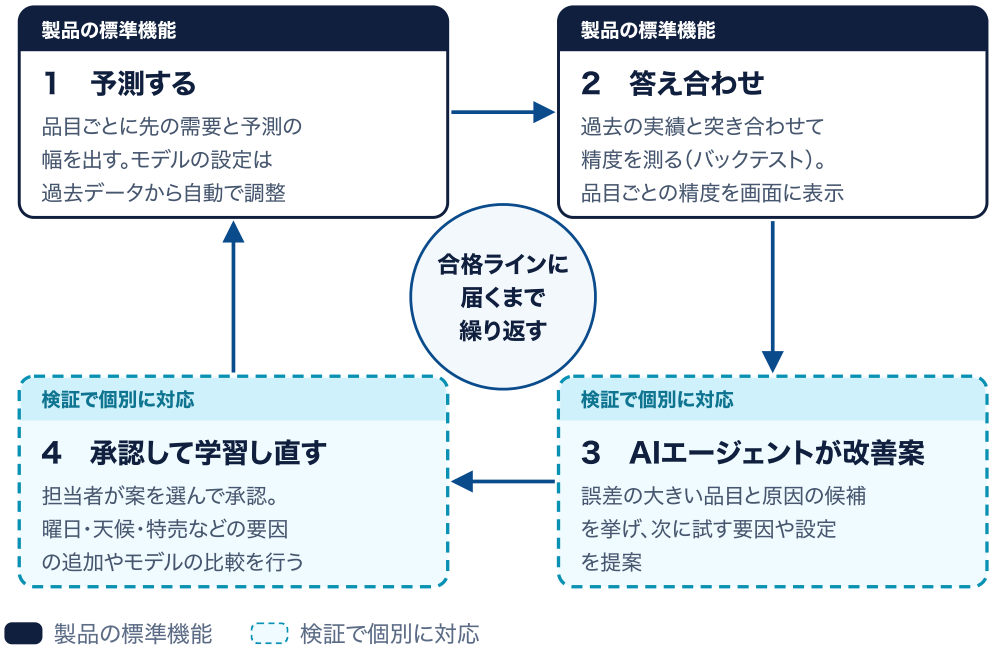
実際の画面（サンプルのデータ）　実績と予測（帯は8割の確率で収まる幅）

発注量の目安の出し方

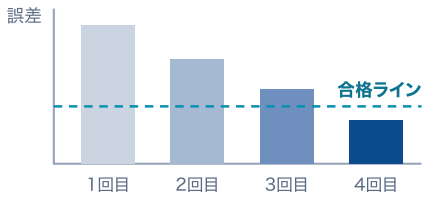
（リードタイム＋安全在庫）日数分の予測需要 − 現在庫 ＝ 発注量の目安

在庫が予測需要を下回りそうな品目は、欠品リスクとして画面で知らせます。

精度を上げる進め方



製品の標準機能　検証で個別に対応



改善案はAIが出しますが、採用するかは担当者が決めます。業務で使える合格ラインを先に決め、そこに届くまで繰り返します。（グラフはイメージ。誤差の大きさは品目とデータで変わります）

05 | SERVICE 3

社内AIチャット導入

いまある文書や社内DBを生成AIにつなぎ、社員だけが使える専用チャットとして導入します。規程・マニュアル・過去資料を横断検索し、根拠の文書とともに回答します。文書をつなげば数日で試し始められます。

こんな課題に

- 社内文書が分散して、探すのに時間がかかる
- 同じ問い合わせに、担当者が毎回答えている
- 情報の取り扱いルール上、一般の生成AIに社内情報を入れられない
- 根拠の分からない回答は業務で使えない

ご提供する内容

- **社内文書・DBとの連携**：規程・マニュアル・過去資料や社内DBをつなぎ、横断検索して回答
- **利用者の認証・アクセス制御**：社員だけが使える環境をつくり、誰が何を見られるかを管理
- **専用チャット画面**：業務で使うことを前提にした自社専用の画面。業務に合わせて作成・調整
- **回答根拠の表示**：どの文書をもとに回答したかを表示し、確認してから使える
- **利用ログ**：利用状況を記録し、対象文書の追加や改善に活かす

安全面

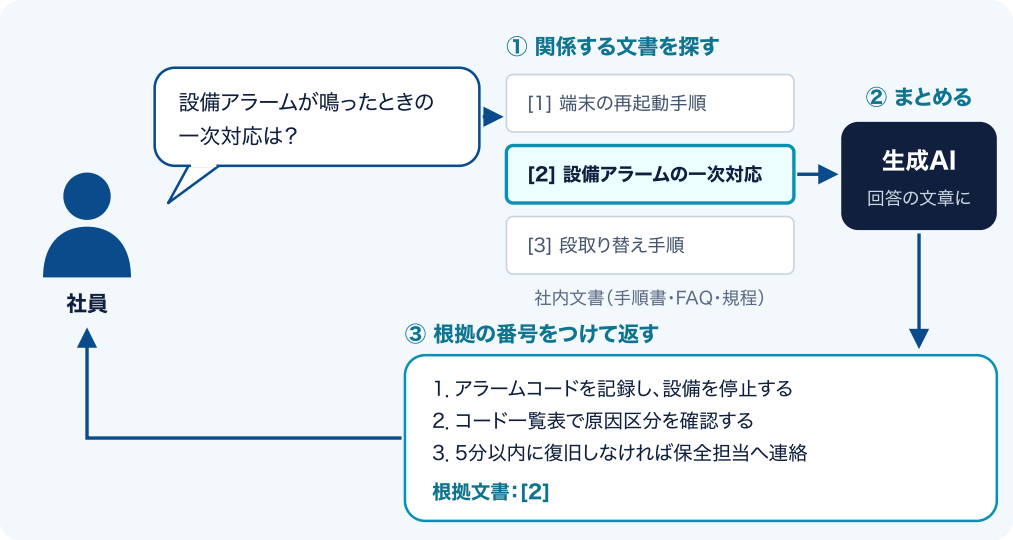
社員だけが使える専用環境として構築し、利用者の認証・アクセス制御、利用ログを備えます。部署ごとに見せる情報を分けることもできます。

広げ方

まず一部の文書と部署で試し、効果を確かめてから対象文書と利用範囲を広げます。既存のグループウェアやDBとのAPI連携にも対応します。

例：設備アラームの一次対応を、手順書から答える。

社員が質問すると、AIが登録した社内文書から関係する部分を探し、根拠にした文書の番号を示して答えます。



社員だけが使える

部署ごとに文書を分ける

質問と回答を記録

```
設備アラームが鳴ったときの一次対応は以下の通りです。

1．アラームコードを記録し、安全を確認して設備を停止する
2．コード一覧表で原因区分（機械/電気/材料）を確認する
3．5分以内に復旧できない場合は保全担当へ連絡する
4．対応内容を日報に記録する

根拠文書：[2]
```

実際の画面（サンプルの文書） 作業手順・FAQをもとに回答し、根拠の番号を表示

こんな質問に

段取り替えの手順を教えて	作業手順書から、手順を順番に答える
経費精算の締め日はいつ？	経理規程の該当箇所を示して答える
新しい取引先はどう登録する？	社内マニュアルから手続きを答える

つなげられる文書の例

社内規程・就業規則
経費、休暇、各種手続きの決まり

作業手順書・マニュアル
段取り替え、設備の操作、点検

FAQ・過去の問い合わせ
よく聞かれる質問と、その回答

報告書・議事録
過去のトラブル対応や決定事項

製品・サービスの資料
仕様書、提案書、社内向けの説明

始め方は3つ。まず試すなら、初期費用0円の月額プランから。

無料

無料AI診断

お手元のデータを送るだけで、AIでどこまでできるかを、データを受け取ってから3営業日以内に診断レポートでお返しします。データの準備がまだでも申し込めます。

対象: 需要予測・画像判定・社内文書の検索。お預かりしたデータは7日で自動的に削除します。
https://shinei-ai.com/free-diagnosis

初期費用0円、月額だけ

月額プラン（ログインしてすぐ使う）

需要予測 月額5万円 ／ 画像判定 月額5万円
（税別）

- 用意済みの画面で学習から予測・判定
- AIが方式やモデルを比べて選び、精度を上げます
- 現場のカメラで判定: 自社の機器（Jetson・小型PCなど）なら月額+2万円、借りる場合は月額+4万円（最低3か月）。どちらも当社のサポート付き
- 最低利用期間なし。1か月ごとの更新。企業（法人）のお客様が対象です

お申し込み: https://shinei-ai.com/apply

個別にお見積り

業務に合わせた導入

データの自動の取り込み、既存のシステムとの連携、画面の作り込みまで、業務に合わせて開発し、プログラムも含めて御社のクラウド環境へお引き渡しします。費用は1回きりの開発費です。

目安: 開発費20万円〜（移行を含む）。当社の環境をそのまま使う場合は、別途、月額でお見積り。一から作る場合は、試す段階だけで100万円〜数百万円が目安と紹介されることが多いです（開発会社などの公開情報、2026年11月時点）。範囲と金額は契約前にご提示します。

業務に合わせた導入の進め方

STEP 1
無料ヒアリング
課題、扱えるデータ、既存環境をお伺いします。仕様書がなくても構いません。

STEP 2
合格ラインを決める
何をもって効果ありとするかを先に決めます。

STEP 3
数日で環境を用意
完成済みのAIシステムにデータをつなぎます。

STEP 4
小さく試す
実データの結果を画面で確かめながら評価します。

STEP 5
御社の環境へ
作った環境を御社のクラウドへ移し、お引き渡しします。

見積もり前に契約をお願いすることはありません。範囲と金額は、契約の前に必ずご提示します。

07 | SUPPORT SERVICES

AIを活かすための、開発と支援もお任せください。

ホームページ、集客、SalesforceやAdobeとの連携、クラウドの環境づくりもお引き受けします。集客・連携・クラウドは買い切りが基本で、ホームページは公開後の直しをAIに頼める月額の形です。

制作 初期20万円〜 ＋ 月額1万円〜

ホームページ制作

WordPressや作成ツールを使わずAIで作り、公開後の直しも専用の画面から言葉で頼めば、数分でAIが直します。月額はAIへの依頼の回数で変わります（月10回まで1万円・30回まで2万円・60回まで3万円）。

設定 20万円〜（買い切り）

アクセス解析・マーケティング

GA4・タグの設定、アクセスの数字の分析と改善案、Google・Yahoo!・X・Instagramなどの広告の運用、SEOと記事の作成を、必要なものだけお引き受けします（広告費は別）。

開発 30万円〜（買い切り）

Salesforce・Adobeとの連携

Salesforce（Sales Cloud、Service Cloud、Account Engagement など）やAdobe（Analytics、Marketo Engage など）と、ホームページや業務システムをつなぎ、同じ内容を何度も入力する手間をなくします。

構築 25万円〜（買い切り）

クラウドの構築・運用

AWS、Google Cloud、Vercel で、サーバーやWebの公開先、社内のデータを集めて分析できる仕組みを作ります。構成の図と手順書を添えてお引き渡しします。

集客・連携・クラウドの保守や運用を任せたい場合は、月額10万円からお引き受けします。金額は内容と量に応じてお見積りし、範囲と金額は契約前にお伝えします。外部のサービスの利用料（サーバー、ドメイン、広告費、製品のライセンス、クラウド）は別です。詳しくは https://shinei-ai.com/services#support

よくあるご質問

中小企業でも導入できますか？

はい。中小企業を主な対象にしています。管理画面やクラウドの仕組みは完成済みのため一から作る費用がかからず、開発の費用も導入した後の費用も小さく抑えられます。専任のIT担当者がいなくてもご相談いただけます。

どのくらいで試し始められますか？

完成済みのAIシステムを使うため、データを受け取ってから数日で検証を始められます。検証の範囲と期間は、扱うデータと確認したい内容に合わせてヒアリング時にご提示します。

既存のシステムや設備は活かせますか？

はい。既存カメラの画像・動画、後付けしたセンサー、POSや基幹システムのデータも対象です。既存のシステムやDBとはAPIで連携します。

画面は自社の業務に合わせて変えられますか？

はい。標準の画面をそのまま使うことも、業務に合わせた画面を作成してご提供することもできます。運用しながら画面や機能を育てていけます。

AIの知識や仕様書がなくても相談できますか？

はい。「AIで何ができるか分からない」という段階からご支援しています。課題と扱いたいデータをお聞きし、進め方を一緒に整理するところから始めます。

精度はどのくらい出ますか？

対象データと現場条件によって変わるため、事前に断定はしません。実データを使った検証で精度を確認し、業務で使える合格ラインを一緒に決めてから判断いただけます。

効果が出なかった場合はどうなりますか？

何が足りなかったかの整理が手元に残ります。効果が出た部分だけを運用に進め、出なかった部分は無理に進めません。

1つ目を試した後、別の用途も試せますか？

はい。画像・動画の判定、センサーの異常検知、需要予測、社内文書の検索は同じシステムの上で動きます。1つ目を試したあと、2つ目、3つ目を試す費用も小さく済みます。

次の一歩：無料相談

課題と扱いたいデータが分かる範囲で結構です。現在の業務、扱えるデータ、既存システムをお聞きし、AIが効く範囲と進め方を整理してお返しします。

お問い合わせフォーム

https://shinei-ai.com/contact

会社概要

会社名	新栄I株式会社（shinei-ai Co., Ltd.）
代表者	小野猛
設立	2026年6月
所在地	千葉県鎌ヶ谷市
事業内容	AIの導入・運用（画像検査・需要予測・社内AIチャット）、ホームページ制作、Webマーケティング支援、システム連携、クラウド構築
ウェブサイト	https://shinei-ai.com